

ユニセフ子どもネット トピックリスト

インタビュー企画 第2弾

ユニセフ現地スタッフ 兼光さんにインタビュー!



みなさんこんにちは! 若手県に住むネットワークワーの鈴木です。10月20日から11月3日までのあいだ、メーリングリストを使ってユニセフ現地事務所のスタッフにインタビューをしました。今回は、ユニセフ中東・北アフリカ地域事務所の兼光さんが、みんなの質問に答えてくれました。楽しいインタビューだったので、みなさんにもご報告します!



©UNICEF/Kanemitsu

兼光 由美子さんからのメッセージ

みなさん、サラマライコム。アラビア語で「こんにちは」という意味です。この返事には、「アレイコム サラーム」と答えます。私は中東にあるヨルダンという国の首都、アンマンに住んでおります。え?それ、どこ?という人が多いのではないかと思いますので、ぜひ地図で確認してみてください。西はイスラエル、北はシリア、南は紅海、東はイラクとサウジアラビアにかこまれた小さな国です。どうですか?見つかりましたか?

日本では中東といえば、よくないニュースばかりが流れるので、とてもこわいところというイメージがあるのではないと思いますが、決してそんなことはないです。今回はぜひ「こわくない中東」をみなさんにお伝えできれば、と思っています。私は現在ユニセフの中東・北アフリカ地域事務所に勤めています。仕事の内容はプログラム準備なのですが、地域事務所に勤めているため、東はイラクから西はモロッコまでの20カ国の活動のサポート役をしていて、ほんとうにいろいろなことをやる(やらされる?)毎日です。しかしいろいろなところにも行け、たくさんの人に会い、多くのことを学ぶことができるのでとても充実しています。

仕事以外では、サッカーチームに入ってフォワードをやっています。それから、中東音楽が好きでCDを買ったり、コンサートに出かけたりしています。そして、ヨルダンを渡る前に、ぜひヘリダナス(アラブ諸国に古くから伝わる民族舞踊)だけは習っておきたいと思っています。

それではみなさん、アラブワールドへ「アハラン ウ サハラン!」(アラビア語で「ようこそ」という意味です)

プロフィール

兼光 由美子

広島県出身。海にかこまれマリンスポーツをしながら育つ。ちなみに高校時代はヨット部。大学は東京に出たが都会生活があわず、大学を出るとすぐに海外放浪生活に入り、気がついたら開発業(開発途上国の人びとのために働くこと)に足をつこんでいた。ヨーロッパ、アフリカなど住んだことのある国は8カ国、旅行で行った国は数知れず。現在はユニセフ中東・北アフリカ地域事務所に勤め、ヨルダンを中心に中東・北アフリカ各国を探索中。趣味はサッカーだが、ヨルダンにきてからこっているのは中東音楽を集めること。自分でいうのもなんだがなかなかいいわい。

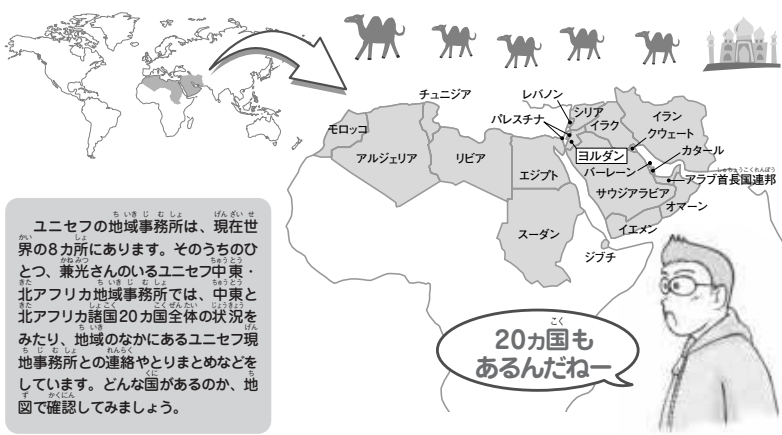


シリアのハマというところを旅行しているときに、お父さんと一緒にモスクから出てきた男の子がかわいかったのでお願ひして撮らせてもらいました。ハマは大きな水車がある街でたくさんの子どもの成長が早いのに驚きました



©UNICEF/Kanemitsu

兼光さんが担当する地域をみてみよう!



ユニセフの地域事務所は、現在世界の8カ所にあります。そのうちのひとつ、兼光さんのいるユニセフ中東・北アフリカ地域事務所では、中東と北アフリカ諸国20カ国全体の状況をみたり、地域のなかにあるユニセフ現地事務所との連絡やとりまとめなどを行っています。どんな国があるのか、地図で確認してみましょう。



ヨルダンのアンマンにある学校で学ぶ男の子
©UNICEF/F. Fontes Abrantes



水たまりから、生活に必要な水をくみ取るイラクの女の子
©日本ユニセフ協会/K.Shindo

Q 兼光さんのプロフィールを見て、とても深い「信念」を感じました。その「信念」が、なぜユニセフ職員になることと結びついたのですか?
(鈴木 智瑛 15歳)

A 真実に「自分が本当に信念があるのか」ということを思い悩んでみました。そして出した結論は、もし私に信念のようなものがあるとすると、「世界を知り、楽しむこと」ではないかと思いました。「世界を知り、楽しむこと」というのは、いろいろな人に会い、さまざまな経験をし、自分がこれまでに頭の上でやってきた枠組みや壁のようなものを壊してしまっても、その経験のひとつひとつを築き上げていくことです。これを信念といえるかどうかはわかりませんが、私の人生のモットー(目標)です。

ユニセフの仕事をするまでいろいろな職場を経験しているのですが、結局ユニセフが一番私の人生のモットーに合う環境を提供してくれているのです。ユニセフで働くことは毎日世界を知ることの連続です。いろいろな人から話を聞いたり、いろいろなものを見たり読むだけでも、私にとっては新しい発見がいっぱいです。また、同時に、これまでいかに自分が何も知らなかったかということに驚かされます。

そして、ユニセフでさまざまな国の人と一緒に働くことは、世界を知ることでもあり、楽しいことでもあるのですが、ときには衝突したり、面倒なことが起きたりすることがあります。そういうことが起きていくときは、なかなか楽しいとは思えないのですが、なんでも話し合いをしていくうちに、自分のいたいことが伝わり、相手の考え方も理解できてきて、コミュニケーションが取れたという達成感のようなものがわくときがあります。こういうときは、大変だなあと思いつつ、じわじわと楽しいなあと思えてきます。

またユニセフで働いていると、貧困、病気、死や紛争など、人間をやめなくなるような場面にも出会うことがあるのですが、そういうときは私たちの生きている世界がいかに完璧でないかということをおもひながら実感し、そしてそういう社会で何ができるかということをおもひながら人と一緒に考えていくことができます。

こうして考えてみると、やはりユニセフで働くことは、私の人生にとっても大きな影響があるんだなあ、と思います。

Q ユニセフ職員として働くことになったきっかけは何ですか?
(奥村 久美子 15歳)

A 直接のきっかけは、国連ボランティアをやった後にユニセフでこれから働こうという人が大学院にいて、いつも現場でおもしろい話やきり話を聞いているうちに、私もやってみたいなあと思うようになりました。

Q 学生のうちに何かしておくといいたいことなどはありますか?
(今関 美都 13歳)

A 私の場合、中学・高校生時代は、勉強はしませんでした。自分の好きなことは好きだけやると決めていたので、今でもそのときに生まれた好奇心のようなものが自分の中心にあるように思います。その好奇心があるので、いろいろなところに行って、新しい環境に適応することができるのではないかと思います。中学・高校生時代は、そのあとの人生を楽しむための感性をみがくことができるものや出来事にできるだけ触れるべきだと思いますが、どんなことでみがかれていくかは人によるかなあとも思います。

Q 社会の教科書に「地雷のある地域」として、中東諸国の名がたくさん出てきます。地雷による被害はどのくらいあるのでしょうか?
(鈴木 智瑛 15歳)

A 2002年の地雷による中東での被害は、アルジェリア、エジプト、イラク、イエメン、ヨルダン、クウェート、レバノン、シリア、チュニジア、パレスチナで報告されています。イラク北部では、地雷による被害は2001年には360人報告されていますが、2002年には457人に増えました。そして、この数は今年のイラク戦争後にさらに増え、2003年の5月には、北部だけで493人の被害がありました。内戦の終結したレバノンでは、地雷による事故はヘリつづあり、2002年には42人と報告されています(ちなみに2000年には

かね みつ しつ もん 兼光さんへこんな質問があったよ!

こんにちは。ネットワー
カーの中津川です。メーリングリ
ストでのやりとりをまとめました。
兼光さんのお仕事や中東の文化に
ついてなど、いろいろな質問や
意見がありました!



113人でした。
これらの統計には、地元の人に加え、地雷除去などの仕事を行っ
ている間に事故にあった人たちの数もふくまれています。

地雷に対するユニセフの中東での取り組みは、地雷の危険性を
知ってもらうための教育活動が中心です。今年の3月にイラク戦争
が始まる前から、大規模な地雷教育活動を行い、地雷の危険性や、
地雷地帯に入ってしまったときの対処のしかたをアラビア語で書いた
パンフレットなどを各地で配布しました。また、イスラエルと国境を
接している南部シバタンでは、2002年の5月から2003年の6月ま
で、地雷教育活動を行い、18万人の学生のうち9万5千人が指導
を受けました。パレスチナでも同じような教育活動が現在も行われて
います。

しかし、地雷撤去条約を批准した中東の国は、アルジェリア、ヨ
ルダン、カタール、チュニジア、イエメンの5カ国のみで、世界の地
雷生産国15カ国のうち3カ国(エジプト、イラク、イラン)が中東に
あります。地雷を撤去する数よりも地雷を埋める数のほうが多いの
が現状です。

Q 今年の8月に起こったイラクの国連本部攻撃によって、ユ
ニセフはどのような影響を受けたのでしょうか?イラク
での活動や、今後の計画はどうなっているのですか?
(鈴木 智瑛 15歳)

A イラクの国連本部攻撃の影響はユニセフにとって、とても大き
いです。ひとつには、デモ国連事務総長特別代表とともにユ
ニセフの職員で私たちの同僚も亡くなってしまったので、スタッフの
ショックがとても大きいということです。そして、この攻撃をきっかけ
に、スタッフの安全を確保するために隣国のヨルダンに外国人ス
タッフ全員が避難するという状態になってしまいました。現在は、ヨ
ルダンから短期でイラクへスタッフが行くという形で活動が続けられ
ています。活動の内容は、医療、水、食料の配給です。そういった努力
もあって、電気、水などの最低限の生活は、2ヵ月前より改善さ
れてきています。しかし、治安のほうは全く回復していません。10
月23日の報告では、駐留軍への攻撃が10月に入ってとくに増え、
日に20人から30人の兵士が攻撃されているとのこと。報道で
は、駐留軍への攻撃数は倍増していることがわかります。



町のいたるところに、イラク戦争の傷あとが
見られる。©日本ユニセフ協会/K.Shindo

Q 「いろいろなメディアを通じて開発途上国とか難民キャン
プについての情報が流れているけれど、足りないものは
「におい」だ」という話を聞いたことがあります。開発途
上国や、内戦の激しい地域は、どのようなにおいがする
のでしょうか? (田淵 紗和子 15歳)

A おもしろい質問だなあと思いましたが、いざ答えようすると、
とてもむずかしい質問ですね。
たぶん、メディアに足りない「におい」というのは、「現実感に欠

ける」ということではないかなあと考えました。確かにこの戦争に関
する報道をみていると、報道規制もあるため、衝撃的な映像も少
ないし、視聴者にとって現実味のあるものは少ないと思います。

私がヨルダンに来て驚いたことのひとつに、アラブの放送局がパ
レスチナ難民キャンプの虐殺をなまなく報道することで、気分
が悪くなってしまうような場面を、数時間流し続けるのは本当に
びっくりしました。

しかし、そのような衝撃的な映像をみても、やはり「におい」は伝
わってきませんでした。衝撃的なあとは思いましたが、その場にい
たわけではないし、家族を殺されてすりすりついてくる人が周りに
いるわけではないし、もちろん死体のにおいが鼻に残るということも
なくて、テレビを消し終わったら、普通に自分の生活に戻るの簡単
でした。

こういふことから、私は映像を通して情報を知ることはできるけ
れど、メディアが本当の「におい」を伝えるには限界があるのではな
いかと思っています。「におい」はそこにいると感じた人しかわからない
のではないのでしょうか。

そして、「におい」は感覚的なもので、その「におい」に慣れ
ていない人がかくと、くさいと思う「におい」でも、慣れた人には良い
「におい」かもしれません。今、こちらではラマダン(注1)が始まり、日中、
イフターと呼ばれる晩餐の準備をする「におい」がするのですが、
最初こちらに来たころはくさいなあと思っていた羊の肉のあぶらの
においが、とてもおいしそうなの「におい」に思えるようになりました。

正直にいうと、こちらに来たころは、ラマダンといえ断食をす
る変わった習慣だと感じていたのですが、いろいろな人と知り合
いになり、イフターに招待してもらったりしているうちに、羊のあぶ
らの「におい」をかくと、食事を囲心しようアラブの家族の顔
が浮かぶようになってきたのかも知れません。

注1) ラマダン…「断食月」という意味。イスラム教の暦が決められた月に、信者の
人たちは1ヵ月間断食をする。ただし、日がはずぬば、食いたげないでよい

Q 日本との文化や習慣の違いに驚いたことなどありますか?
(鈴木 智瑛 15歳)

A アラブにあるたいていの国のオフィスアワーは、朝8時から
夕方3時半までです。お昼休みはありません。みんな夕方3時
半になるといそいそと家に帰り、4時ごろ家族団らんで昼食を取りま
す。そのあとは話をしたりテレビをみたり、8時ごろ夕食をとったり、
ゆっくりと時間を過ごす人が多くいます。家族とても大切にす
る文化なのです。3時半までにはこのオフィスも閉まってしまうので、
重要なことは朝のうちにやってしまう習慣がきました。

日本では朝8時から夜8時まで働くのは普通のことなので、こちら
に来た人は、たいていびっくりしています。そしてよく「日本とアラ
ブの国に、どっちが本当は量かなかわからない」といっています。
また、アラブの国に週末は、たいてい金曜日と土曜日です。
イエメンなどは木曜日と金曜日が週末だそうです。ヨルダンは週
の初めが日曜日なので(つまり金・土が週末です)、日曜日からは働き始め
るというのになかなか慣れませんでした。

Q イスラム教では、男性がモスクに行って祈りをします。
さらに、一生に1度はメッカに行くといわれています。女性は、
どこで祈りをしているのですか?(今関 美都 13歳)

A モスクに礼拝に行くことですが、実は女性も男性も行きます。
私の女性の同僚によると、ヨルダンでは、平日は男性でもあま

り行かない。女性はぜんぜん行かない、とのこと。みんな仕事がある
のでなかなかモスクまで1日5回も行けないようです。男性はタクシ
ードライバーなど自由がきく職業の人がモスクへ行くと言っていました。
うちの事務所でもそうですが、みんな事務所にあるお祈り用の部屋で
祈っています。しかし、週末はたいがいの男性がモスクへ行く。女性
でも行く人は行くとのこと。女性がモスクへ行かない理由は、子ども
がいたり、家事があるので、家のほうがくろくお祈りができると
のこと、モスクへ行けないことに不満はないようです。

女性もメッカに行きます。メッカへの巡礼(注2)には、ハッジ(大巡
礼)とアムラ(小巡礼)というのがあり、ハッジは、一生に1回行う
もの、アムラは何回でも行けるということです。例えば、その同僚の
女性は3年ほど前にハッジでメッカに行ったのですが、もし行きたけ
れば再度アムラでメッカに行くことができるとのことです。

メッカに行くと帰ってきた人に会うと、みんなははれとした顔に
なっています。女性はメッカに行ったのちにベールをかぶりだす人が
います。どんな感じかと聞くとみんな生まれ変わったような感じがす
るといっています。

イスラム教という男女をわける教えのように思いますが、イス
ラム教徒であれば男でも女でも「五行」(祈り、断食、巡礼、喜捨(注3)、
信仰)をしなければならず、神の前では人間はみな平等ということで、
ハッジの行われる10日間は男女関係なくとも生活をた、という
ことを同僚の女性が言っていました。

注2) 巡礼…宗教の聖地へお祈りに出かけること
注3) 喜捨…めぐめきれない人たちやお寺などに、すずんで寄付をすること

Q 日本に生まれて、今まで平和に過ごしてきた私たちにでき
ることってなんだと思いますか?また兼光さんは、私たち
に何を知ってほしいですか? (藤原 美典 17歳)

A 「自分たちに何ができるのか」ということですが、私は海外の
問題と比べると、突きつめること国内の問題だと思っています。
自分の国が問題をかかっているのに、どうやって他の国を助けるこ
とができるのでしょうか?他の国のためになることをしようと思うと、
自国が良い政策をしていないと無理だと思います。わかりやすい例だ
と、自国が排気ガスをどんどんだすような環境政策をとっているよう
では、他の国の環境保護なんか絶対できません。

と、いうことで、もう一度自分たちのまわりの政治、社会問題を考
えてみることでいいのでしょうか。みんな考えて、話し合う文化を
まわりにつけていく。解決策があればそれに取り組んでみる。とても
地味でかっこよく聞こえないかもしれませんが、私はこれをオススメ
します。

そして、もうひとつは、1人本当の外国人の友だちを持つ、とい
うこともオススメです。1人本当の外国人の友だちがいて、その人の
ことやその人の国や文化のことを理解するだけで立派な国際理解だ
と思いますが、どうでしょうか。

最後に兼光さんからみなさんへ

みなさん、どうもありがとうございました。むずかしい質問がぎ
ぎと送られてくるので、頭を悩ませましたが、とても楽しかったです。
毎日たくさんペーパーワークがあったり、数字ばかり追っていたり
するんですが、みなさんとメールで意見交換できてどういう人たち
がユニセフを支えているか実感することができました。

みなさんも勉強やスポーツやデート(?)に忙しいと思いますが、今
を大切にいろんな経験を楽しんでくださいね。それでは!



兼光さん、お忙しいところをていねいに答
えてくださって、本当にありがとうございます。
「世界を知り、楽しむこと」という、兼光
さんのポジティブで明るいこの言葉が、心に
残りました。望みを捨てず、つねに向上心
をもって、世界を知り、楽しむながら、世界
の国に人の心と一緒にとつて命を救え
るような人間になりたいと思いました。兼光
さん、マー アッサラマ(さようなら)!
(鈴木 智瑛 15歳)

みなさんの質問や感想を見て、とてもすばら
しいと思いました。あるセミナーでアフリカ人の先生
が「Africa is a Colorful World」といったことを
思い出しました。いつか世界が、こわいイメージなど
誰も持たない、平和で明るい「Colorful World」
になるように、わたしたちは努力をしていきたいと思います。
「自分に向かえるか」をつねに考えて行動して
いければ道は開けると思っています。わたしたちはこれか
ら兼光さんに教わったことをもとに、活動を続け
ていきたいと思います。(中津川 有紀 17歳)

かねみつ てがみ 書こう!
兼光さんにお手紙を書こう!
今回のメーリングリストでのイン
タビューはいかがでしたか?きつと
いろいろなことを感じたと思います。
そこで、兼光さんへみなさんの感想
を送ってみませんか?もっと知りた
いなあと思うことや、わからないこ
とでもかまいません。郵送または、
ファックスやメールでユニセフ手
どもネット事務局までお送りください。